

センターだより

〈発行〉 国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局 神戸視力障害センター
 神戸市西区曙町1070 電話 (078) 923-4670 FAX (078) 928-4122
 URL : <http://www.kobe-nhb.go.jp/> E-mail : syomu@kobe-nhb.go.jp

卒業を祝して

所長 千葉 一也

平成23年3月1日 平成22年度卒業証書授与式が行われました。

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。皆様は本センターで3年という長きにわたり、たゆみない研鑽努力を積み重ねられ、ここにすべての課程を修了し、新たな門出の時を迎えることとなりました。皆様のこれまでの並々ならぬご努力に対しまして、深く敬意を表しますとともに、心からお祝い申し上げます。

さて皆さん、当センターに入所した時を思い出してみてください。

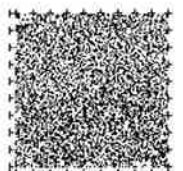
視力の障害が進み、生活上の色々な制約などから理療師への道に進むという大きな決断をされました。この決断をされるまでには、様々な不安や思いなどがあったことでしょう。しかしそれらを乗り越えられて皆さんは当センターの門をたたかれました。そして理療師になるため、保健医療の分野の勉強をされました。この勉強は今までの生活からはなじみのない、異なる分野で一方ならぬ苦労も多かったのではないのでしょうか。

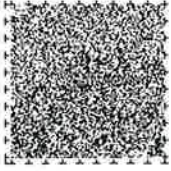
しかしながら、皆様は立派に課程を修了され、ここに卒業という節目を迎えられました。これからは、センターで学んできたことを生かし、理療業界で働いて

いくわけですが、どうか神戸視力障害センター出身の誇りを持って行って欲しいと思います。昭和26年に当センターが誕生して以来、60年の長い歴史と伝統のもと3100余名の諸先輩の方々を輩出しており、今も第一線で活躍中の方々も数多くいらっしゃいます。皆さんにはこれら諸先輩に引き続き職業人として立派にご活躍されることを期待しています。

保健医療の業界は、人の命や健康と直接かかわることから、とても崇高な仕事である反面、困難な仕事でもあります。信頼される理療師になるために更に自己研鑽を積み、一層高度な専門知識や技術を身につけられるよう希望します。センターとしても卒業後のアフターケアとして研修会など開催し皆さんのお役に立ちたいと思います。

そしてもう一つ、センターで共に励まし合い、助け合いながら学んだ仲間も大切な財産です。この絆も大切にしながら立派に活躍されることを期待しています。





卒業生からの言葉



今年度の卒業生の方から、仲間に向けての言葉を頂きました。

3年間を振り返ってみると、入所前は不安ばかりでした。

勉強からしばらく離れていたもので、ついていけるのか等ありましたが、入ってみると寮も居心地がよく、今までふれたことがなかった視力障害スポーツ、イベントを経験することができました。勉強も視力障害があっても分かりやすく教えて頂きました。

過ぎてみると、とても早く充実した3年間でした。ありがとうございました。

天羽 降太

このセンターの門をくぐってから3年間、長いようで短い、短いようで長い日々でした。

理療の勉強以外に様々な視覚障害者がいるのを知ることができたし、障害を乗り越えていくこれからの生活にも役に立つ気がします。

仲野 優子

3年間、大変お世話になりました。

神戸センターで多くの人と出会い、沢山のことを学ぶことができました。

こうして卒業という日を迎えられるのも、多くの方に支えていただいたお陰です。

有難うございました。

内田 敬久

5年前に一人歩きが出来なくて困っていたところ、人に勧められてセンターの生活訓練課程に入所し、日常生活、歩行などを訓練し、修了後、次の段階に進まないと、と思い、1年悩んだ末、理療課程に入所する事にしました。

ところが、23年ぶりの勉強と家庭との両立、テストのたびに起こるアクシデント。1年生では、腹膜炎で入院、2年・3年生では、両親の他界。そのたびに、何度となくやめようと思いました。

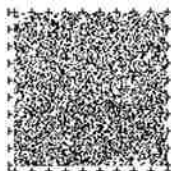
慣れない専門用語、むずかしい勉強、どれをとっても私には理解できず、人の何十倍も勉強しても理解できませんでした。

それを、あたたかく見守ってくれた仲間、陰でささえてくれた家族。でも、どうにか、ここまで3年間やってこれたのは、諸先生方のおかげだと思います

今までお世話になった方々にご恩返しをしていきたいと思いますので、がんばっていききたいと思います。

本当に、どうもありがとうございました。

北井 ひとみ



卒業生の方々へ

光友会会長 井口 健 司



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんには、私達が難しい勉強で苦しんでいる時や、慣れない寮生活に思い悩んでいる時など、その場面に応じて適切なアドバイスをいただくなど、大変お世話になり、ありがとうございました。

三年という期間は長かったとお感じでしょうか。

それとも意外と短かったとお感じなのでしょうか。

いずれにせよ三年という年月の中には、色んなことがあったものとお察しいたします。

それでも皆さんは、様々な困難を乗り越え、日々勉強と実習に精進し、卒業という当初の目標を見事に達成されました。

そのご努力に対して、私達は敬意を表すると共に、後に続く者として、是非とも見習いたいところがございます。

念願の国家資格を取得された暁には、このセンターで学ばれた知識と技術を遺憾なく発揮され、更に日々研鑽を重ねつつ、あはき三療の世界で華々しく飛躍・発展されますことを祈念いたします。

最後に、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。



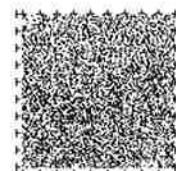
平成22年度 卒業生進路状況

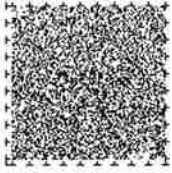
教務課長 浅井 邦 夫

今年度の卒業生は専門課程4名で、卒後の進路は表の通りです。進学の名は、3年次に進学の意志を固め受験準備をしてきたところで教員養成課程への進学が決まりました。就職の3名はいずれも老人施設に内定となりました（2名はデイサービス、1名は入所施設）。

就職に際して本人にとっての第一要件(職種や地域)がほぼ叶うかたちでの就労内定となりました。自宅からの通勤が条件で、県リハより紹介があり雇用にいたった方。また、他県での就労が希望で、その地域のハローワークを介して条件に合う所を見つけることができた方などです。今回3名の就労先はいずれも障害者の雇用は初めてということで、就職担当者が出向いて調整にあたりました。

進路	課程	高等課程	専門課程
開	業		
治療院就職			
ヘルスキーパー			
老人施設			3
訪問マッサージ			
進	学		1
そ	の		
他			
計		0	4





生活訓練

平成23年3月6日(日)、 本センターにおいて、「生活訓練体験会」を開催しました。

「生活訓練体験会」とは、見えない・見えにくいことでお困りの方やそのご家族・支援者の方を対象に、実際に生活訓練を体験していただく企画です。

参加する方のご希望に合わせ、歩行やパソコン、点字などの生活訓練から、お好きな科目を組み合わせ、プログラムを作り、体験していただきました。今回は、ガイドヘルパー・ボランティア・関係機関職員など、視力障害のある方を支援する立場の方々にも多く参加していただきました。終了後のアンケートでは、ほとんどの方から「満足」「どちらかといえば満足」の評価を頂きました。

本センターでは今後とも、視覚障害の理解のために周辺地域の方々へ向けた企画をしてまいります。

歩行体験

視力障害のある方の歩行といえばすぐに思いつくのが白杖ですが、「白杖を持ってはいるけど使い方が良く分からない…」という方は多いのではないのでしょうか？

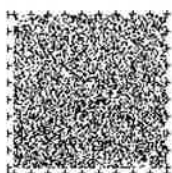
今回の体験会ではそうした疑問をお持ちの方に、基本的な持ち方や振り方、階段昇降での使い方などの訓練を体験していただきました。白杖を上手に使い、様々な場所で活用するためには何時間もの訓練をする必要がありますが、基本的な知識やちょっとしたコツを知るだけでもずいぶん歩行が楽になることを実感していただくことができました。また、ご家族やボランティアなど普段、視力障害のある方と接する機会の多いの方々には、安全な移動介助の方法等をご紹介します。



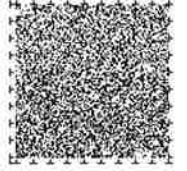
調理体験

「見えにくくて料理が大変」「ガスコンロを使うのが不安」という方に、レンジ料理を体験していただきました。今回のメニューは「きんぴらごぼう」。

視力障害のある方向けの調理器具や、調理をする上での工夫をご紹介します。ご家族・支援者の方々にはアイマスクをしての調理体験もしていただきました。



体 験 会



パソコン体験

「パソコン画面が見えにくくなってきた」「パソコンを初めて使ってみたい」という方を対象に、画面を見やすく拡大する方法や、マウスを使わない操作方法、音声パソコンの使い方などをご紹介しました。

インターネットやメールを使いたくても、画面が見えづらくなってからパソコンを触っていなかった、という方からも「これなら使える」とご好評を頂きました。

生活相談

「拡大読書器を使ってみたい」「色々な便利グッズを実際に使ってみたい」といった、皆さんの様々なご希望に応じて職員が個別に対応し、各種の便利グッズを上手に使う訓練の体験等を行いました。

各地の福祉機器展などで見ることはあっても、個別に使い方の訓練を体験できる機会はあまりないと、ご好評を頂きました。また、今回の体験会等を通じ本格的な生活訓練に対する興味をもたれた方には、本センター利用に向けた相談を実施いたしました。



兵庫県グランドソフトボール大会に出場しました

クラブ活動紹介 ② グランドソフトボール部

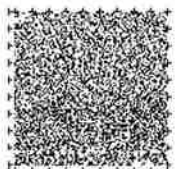
平成22年11月3日(水)文化の日に、第12回兵庫県グランドソフトボール選手権大会が行われました。余暇活動支援の一環としてグランドソフトボール部が参加。昨年度は休部していましたが、理療教育課程の1年、2年生が集まって復活、大会に向け活動してきました。

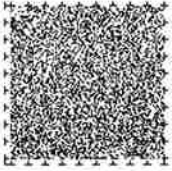
大会は神戸市や淡路盲学校OBなど全6チームが3チームずつの予選リーグと順位決定戦に臨みました。晴眼者ばかりのチームあり卒業生加入のチームありで白熱した試合が繰り広げられました。初戦の相手が優勝チームで逆転負けながら接戦の2-4。勢いに乗れば優勝もあるかと思わせる戦いぶり、今後に期待を持たせてくれました。



出場した利用者の感想です

『11月3日に神戸市立大倉山野球場で開催された「兵庫県グランドソフトボール選手権大会」に出場しました。当日は快晴で野球日和になりました。ほとんどの選手は4月にグランドソフトボールを知ったばかりの初心者。半年間の練習の成果、1勝することができました。結果は1勝2敗で4位でしたが、みんな楽しく終わることができたようです。またお手伝いで来ていただいた先生方ありがとうございました。』





卒後研修会



平成22年度の「卒後研修会」が7月2日に神戸市総合福祉センターにて行われました。兵庫、大阪、京都在住の卒業生を対象に募集し、27名の参加でした。午前の講座では、当センター浮田教官による「オイルマッサージの基礎」、また午後には当センター小田教官による「足裏のツボって何」と題しての講義と実習が行われました。実践的な内容に多くの参加者が熱心に取り組んでいました。また、今年度の「卒後特別研修会」は、10月22日・23日の両日、鳥取県米子市において主に中国地方の卒業生を対象に行いました（受講者12名）。



第一日目の講座は、「鍼治療と頭部循環改善について」と題して、(社)信愛福祉協会評議員の松本剛典先生による講義および実習でした。参加者にとって平方流鍼法は初めての経験でしたが、わかりやすい講義と丁寧な実技指導をしていただきました。「一本の鍼に術者の気を込め丹念に施術する」「皮下に刺入した鍼先の感覚は晴眼者も視力障害者も関係ない。皮下の鍼先は見えないのだから、同じ土俵で勝負出来る。鍼先の感覚で皮下の組織状態がわかるよう技術を磨くことが重要」講師の言葉に真剣に聞き入る受講生、今後の施術に十分に活用していけるものと確信しました。

第二日目の講座は、「音楽療法の基礎と実際」と題して、音楽療法学会中国支部支部長の武田千代美先生による講義および実習でした。欧米では、療法とは治療を含むものと考えられている。音楽療法は、ある特定の対象者に対して、その個人やグループに対応したプログラムに基づいて行われる。音楽療法のセッションを施行した前後で、患者がどのように変化したかをチェックする。音楽療法にはどのような効果があるのか、わかりやすい講義とたくさんの楽器を使っての実演で、その一端を教授していただきました。

二日間の研修会を通じて参加者それぞれが得たものを今後の仕事の糧にすることができればと願うとともに、今後とも卒業生の皆様に役立つような研修ができるよう検討していきたいと思っております。



臨床研修講座



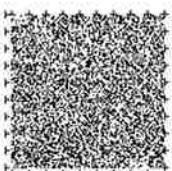
本年度の臨床研修講座は計6回行い、各回著名な臨床家を招き、より実践的な臨床技術について教授していただきました。

この講座は主に卒業学年を対象に、実際にあはき臨床の場に活かせるよう幅広く様々なテーマを設定し、実践的技術の習得を目指しています。

テーマ(内容)としては、

- 「スポーツ障害に対する手技療法」(講師：松浦英世氏) ◦「間接灸の実際」(講師：瀬田聡氏)
- 「古典的鍼灸治療のすすめ方」(講師：石井伸也氏)
- 「ライフサイクルに応じた女性のヘルスケア」(講師：矢野忠氏)
- 「中医学に基礎をおいた鍼灸治療の実際」(講師：藤本蓮風氏)

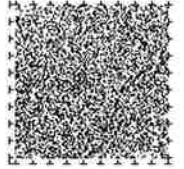
また、今回初めての講座として、イギリスより来日中であつた Narendra Mehta 氏による「インディアンヘッドマッサージ(チャンピサージ)の理論と実践法」というテーマでの講座を実施しました。



Narendra Mehta 氏自身全盲でインドにて整骨師として、また英国でフィジカルセラピストとして、その後インディアンヘッドマッサージと名づけられたセラピーを発表しイギリスをはじめとして各国で健康にかかわる施術者や一般の人から支持されるようななつた、ということで紹介されました。受講者からは、興味深い内容であつたとの感想が寄せられていました。



福祉機器体験会



平成23年1月25日(火)、本センター地域交流棟にて、「見えにくい、見えないことでお困りの方の福祉機器体験会」を開催しました。

地域の企業5社に協力をいただき、多数の方々に視力障害に配慮した福祉機器のご紹介とご説明を行うことができました。また、センター職員も展示スペースでの福祉機器のご説明や、視力障害に係る情報提供を行わせて頂きました。

利用者、一般合わせて50名近くの方々が来場され、拡大読書器やルーペ、音声対応携帯電話など様々な展示品に触れ、説明を受けておられました。アンケートにご協力下さった方々からは、「このような展示会を今後とも開催して欲しい」「さらに多くの出品や企業の参加を希望する」というご意見を頂きました。

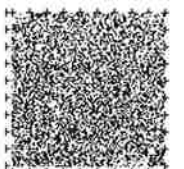
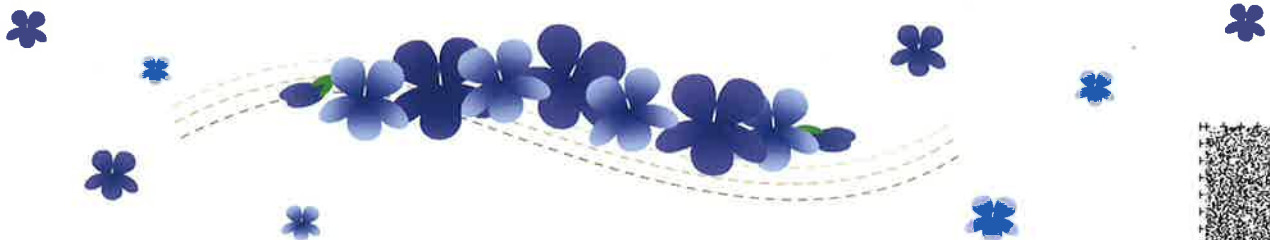
こうしたご意見をもとに、本センターでは今後さらに視覚障害者福祉を担う社会資源としての取り組みを強化して参ります。

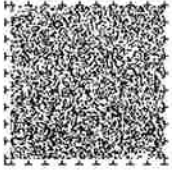


センター行事

(2011年4月から2011年9月)

- | | |
|------------------------|---|
| 4月4日(月) 始業式
前期授業開始 | 28日(火) 第1回模擬試験(受験学年) |
| 6日(水) 入所式 | 7月上旬(休) 第1回職場開拓委員会 |
| 11日(月) 1年生授業開始 | 7月16日(土) 利用者夏期休業
(理・専門課程、高等課程 8月28日まで) |
| 5月下旬 第1回総合避難訓練 | 8月29日(月) 授業・訓練開始 |
| 30日(月) 臨床研修コース利用開始 | 9月28日(水) 前期期末試験(30日まで) |
| 6月13日(月) 前期中間試験(15日まで) | 9月30日(金) 前期授業終了
臨床研修コース修了 |
| 16日(木) 再理療教育利用開始 | |





利用者募集

神戸視力障害センターでは、視覚に障害のある方に、生活訓練、理療教育を行っています。

生活訓練（移動、コミュニケーション等）は年間を通じて随時募集しています。理療教育（あん摩マッサージ指圧、はり（鍼）、きゅう（灸）の職業訓練）は年1回の募集です。

利用を希望する方も、どんなことができるのか検討中の方も、まずは一度お電話ください。見学も受け付けています。音声パソコンや便利な道具の紹介も行っています。相談は無料です。

生活訓練課程（自立訓練（機能訓練））

対 象	視覚障害の身体障害者手帳が交付されている15才以上の方
訓練内容	歩行 パソコン 点字 調理 録音図書再生機器などの各種道具 体育 陶芸 レクリエーション等。 携帯電話の使い方など必要に応じた訓練 を行いますので、内容は相談によって決まります。
時期・期間	随時開始。期間は個人に応じます。 会社の休職期間中に、といった相談も可能 です。
時間帯	主に平日の日中。週3回、毎日午前中だけ、というようなプログラムも可能で す。夜間の歩行訓練を行うこともあります。
手続き	利用者募集要項の中の申込書類を提出。募集要項は郵送またはホームページか らダウンロードできます。申込みの前に御連絡ください。
費用	自立支援法に基づく利用料。市区町村で決定。利用日数に応じて月々の負担額 が算定されます。所得に応じた上限額が設定された定率負担と実費相当分とが あります。詳細は御相談ください。
利用方法	入寮（宿舎利用）・ 通所 ・ 訪問訓練

連絡先

神戸視力障害センター 支援課

【電話】078-923-4670 【FAX】078-928-4122

【Eメール】sidou@kobe-nhb.go.jp

【ホームページ】<http://www.kobe-nhb.go.jp/>

【交通アクセス】JR明石駅から神姫バス利用（南3番バス停。西神中央駅行き）
で約15分、吉田バス停から徒歩約3分（バス進行方向に直進、
交差点を渡り左折、右側にセンター正門）

